

チームやんじー災害支援プロジェクト 被災地での活動内容

第1陣

3月15日～3月31日

【東北に入るまで、南三陸町へ】

3月11日の東日本大震災発生した時は、北海道豊頃町にて、レスキューキッチンを使った炊き出し訓練指導中の真っただ中でした。

3月15日にチームやんじー災害支援プロジェクトを発足させて、東北に入る準備をしました。

いつ、電波が届くかどうか分からない状態でしたが、被災地の様子や活動の様子を現地でお知らせするために、ネット環境を整えていきました。

被災地では、ほとんど、不安定な電波状態の中、iPhoneを使っての情報発信となりました。

同時に、北海道を中心にトラック、食材、燃料、機材、フェリーの手配に奔走しました。

活動支援金を募り、また、ニセコ(蘭越、洞爺も含む)、長沼、札幌、十勝を中心に、後方支援チームが出来てきました。

東北周辺の災害ボランティア団体と連絡を取りながら、23日に東北に入ることが決まり、まず、仙台から入ることになりました。

仙台にある会津通商(運送会社)の協力を得て、倉庫を確保することが出来ました。支援物資を置き、拠点が出来ました。

東北に入る時は、経験を生かして支援物資の物流拠点を置くことと、いろんな団体と被災地のコーディネーター役の役目の予定でした。

しかし、地元の若者でそのような体制が出来つつあり、大量に炊き出しをする団体がいなかったため、炊き出し隊及びアドバイザー役に徹しました。

倉庫に身を寄せていた南三陸町歌津出身の女性の案内のもと、南三陸町にて炊き出しを開始しました。

また、石巻市においては、札幌から来ていた奥芝さんの案内のもと、何か所かで、炊き出しを実施しました。最高、1日1200食ものラーメンを提供致しました。

被害の範囲が広大なため、石巻市と南三陸町に焦点を絞り、支援体制に入りました。

あるボランティアセンターにおいては、ボランティアさんの食事もままならない時で、ラーメンの炊き出しも致しました。

【第1陣主メンバー】 敬称略

山口幸雄	山口由里	北島こうき	石崎重裕	輪島みちよ	色地しゅう	生杉 学	村上 考一	千葉 和也
------	------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------

【炊き出し総数】 4150食

【被災地の状況】

水も給水車が来たときにもらい水をし、電気は通っておらず、ガスもほとんど復旧してない状況でした。

お風呂、洗濯する設備もありませんでした。トイレもままならない状況でした。泊りは、駐車場にて、2トントラックやバスの運転席に寝る毎日でした。

自衛隊が行き来をし、行方不明者の捜索があちこちで見られました。

がたがたの高速道を毎日、仙台から南三陸町へ。南三陸町から石巻市へと片道2時間～1時間を移動する毎日でした。

夜の炊き出しが終わると、まだ行方不明者がたくさんいる瓦礫の中を真っ暗の闇の中、車を走らせることの繰り返しでした。

【活動の状況】

いのちをつなぐ炊き出し

雪やみぞれまじりの雨が降る日も多く、あたたかいラーメンや汁ものは大変喜ばれました。震災から10日目、冷たい白飯しか食べてないとか、あるものをかき集めてを何とか分け合って食べてるといった状況でした。また、地元の方に切りものを手伝ってもらったりもしました。ちょっとした活気がありました。りんごやバナナのフルーツ、チョコレートなどのお菓子は大変喜ばれました。しかし、炊き出しに食べに来る人は、表情が硬い人も多かったです。顔をこわばらせて、黙々と食べる姿や涙ぐんでる方もいました。軽トラックの荷台に人が何人か乗って、来る姿も見られました。

【購入した主なもの】



炊き出しの材料



水タンクも積み込んで



親子で炊き出しをもらいに

【活動の写真】



最初は高速道は緊急車両のみ



物資を南三陸町にて3. 23に配布



各地でカンパの輪が



マイクロバス、2トンなど、計5台で行く